

活動名	団体名	くれ絵本カーニバル実行委員会
	地域	広島県呉市
	代表者	委員長 長町 三生
	支援金額	15万円
<p>第2回くれ絵本カーニバルの開催</p>		
<p>活動概要</p> <p>昨年に続いて本年も「ふしぎくれ絵本カーニバル」を開催した。この催しの目的は、数百冊の絵本を一堂に集め、親子が絵本を見、絵本を読むことで、①親子の対話を促進し、②絵本を読むことを楽しみ、③想像性を育み、④創造性を育成すること、である。実態調査によると、絵本カーニバルに来た子供たちのかなりの人達が家に帰っても本の読み聞かせを親に求めたり、自ら本を読む習慣をもつように変化する。</p> <p>今回はボランティア全員の意向で、「ふしぎ世界の旅」というコンセプトを決定し、国際感覚(Globalization)を育むことを考え、世界を5つの大陸に分類し、それぞれの大陸に該当する”不思議”の絵本を450冊選定しそれらをサブコンセプトに合うように並べて分かりやすくした。</p> <p>イベントとしては、絵本を並べると共に、7団体の「絵本読み聞かせグループ」の担当で、それぞれの大陸の”ふしぎ”を選んだ本から7回の読み聞かせを実施した。それ以外に、紙芝居、折り紙づくり、紙飛行機大会等子供たちを飽きさせない工夫を凝らして、楽しい絵本カーニバルを実施した。紙飛行機大会は絵本を読む文化的な催しの中で理科科学的発想を育成することを狙いとして、折り紙の折り方で遠くへ飛んだり空中を長く飛行する理屈を理解させ、自分で折って作成した飛行機がどのように狙い通りに飛んだかを体験・理解させ、3等までを表彰することで大変な盛り上がりがあった。大人たちも別グループとして参加し、たいそう喜んでくれた。</p> <p>◆実施時期 平成22年9月25日(土)・9月26日(日)の2日間 呉市総合体育館オークアリーナー(武道場)</p> <p>◆参加人数 9月25日(土)(11:30～17:00)－294名 9月26日(日)(10:00～16:00)－303名(2009年度は合計で581名) 参加総人員 597名</p>		



子供たちとのテープカット



親子が一緒



読み聞かせ



遠くへ飛んでゆけ～

◆実施に伴う効果

＜効果＞

- ①昨年度と比較して、格段に親子連れの参加者が増加したこと(写真参照)。本カーニバルの狙いは親子の対話と親子の交流、そしてその作用として本読みの習慣が生まれ、増大すること、です。その狙い通り、親子の参加者増大は本委員会として最大の喜びです。
- ②読み聞かせを7回実施しましたが、参観者から「とても良かったし回数も多くてたくさん楽しませてもらった」、との声を沢山頂きました。
- ③紙飛行機大会が最大の盛況でした。親子共に約30人(計約60人)の参加者が折り紙の仕方を学び、飛ばせて飛行距離を競うイベントでしたが、会場が大騒ぎでした。こども入賞者には感想を大きな声で発表してもらうなど会場全体の交流が実現でき、参加者からも「飛行機大会が最高でした。家でも家族でやってみます」との意見が多く寄せられました。(写真参照)
- ④何人かの父親から、「子供とこんなにたくさんの絵本を一度にたくさん読んだのは初めてです。1年ぶんくらい読んだと思います。これからが大変です。毎日「よんで」と言われそうです」と半ば喜んでお帰りになりました。
- ⑤10月13日(水)の反省全体会議では、ボランティアとして主体的に活動した8つの読み聞かせグループ及び保育グループの意見では、多くの参加者から喜ばれ感謝され、実施してよかった、との意見がだされた。

＜総括＞

地域ごとに小さな子供向き図書館が併設されているが、そこで親子が声を出して絵本読みをすることは、周囲への影響もあって、ほとんど見かけない。これに反して、絵本カーニバルは声を出して読んでも誰にはばかることがないので、親も子供も自由な気持ちで本を読んでいた。時にはすでに読んだ本から関連する本を子どもが選り出して来て読んでいた。このような現象は450冊も一同に存在する環境だからこそ発生する現象です。

昨年もお越しになった親から、「此処に来たことが本を読む契機になりました」と言われましたが、本を読む習慣、あるいは本読みが楽しくなる契機を絵本カーニバルが作り出す力を持っていると考えられます。

たくさんの絵本に囲まれ、その中から興味のある本を探し、自分が読んだり、親に読んでもらうことから、想像性を膨らましいろいろな事柄を考える能力が育ちます。またその中から常識を養い良き人間関係を維持する気持ちも生まれます。九州大学で私どもが考えた「子ども育成」のアイデアは間違っていなかったと考えます。

(注:絵本カーニバルは長町もふくめて数人の教授たちのアイデアで生まれた形式の「移動する図書館」の1種です。これは2007年には経済産業省のGood Design賞をいただきました。くれ絵本カーニバルはこれを基盤として、呉方式でアレンジした形式のものです。)

◆苦労した点

- ①たくさんの親子連れに参加していただくことが、最大の課題です。そのために広島国際大学女子大生にかわいいポスタを作成してもらい、300枚印刷をしました。また幼稚園・保育所・小学校・中学校の参加を呼びかけるためにチラシを3,000枚印刷しました。これらを呉市教育委員会のネットワークに乗せて各学校に配布をしました。
- ②それ以外に、新聞社記者会見(中国新聞だけ記事を掲載してくれました)の実施、呉市市民だより及び呉市市内誌KUREBANに記事のお願いを依頼しました。その他、各地図書館、スーパーマーケット等人が集まりやすい箇所の張り紙をお願いしました。
- ③このような形でPRの展開ができたのは、呉市教育委員会が全面的な協力をしてくれたこと、呉市内の8グループの読み聞かせの人たち及び保育グループの先生方の協力があったって実現したものです。もちろん、呉市中央図書館の協力によって450冊の絵本の抽出作業が可能となりました。その他、呉工業高等専門学校の学生たちが図書館から32台の平台と図書を運搬してくれるなどの協力もありました。
- ④最大の課題は、経験的に算出して約20万円あれば僅かな余剰金を加えて予算的には大丈夫と考え、マツダ財団に助成をお願いしたところ、助成金は15万円でしたので、いかにして予算の範囲内で実行するかが大きな苦労でした。デザイン料・アルバイト料・看板料などすべて作戦より低額でお願いし、読み聞かせグループにも飾り付け材料を負担していただくなど切り詰めましたが、結果的に赤字になりました。

◆活動を終えての感想・意見等

- ①最大の課題は「資金の調達」にあります。もともと呉市の活性化活動として出発しましたが、資金に関しては呉市に頼らなくて外部からの支援で実行するというスローガンで進行しているものです。外部のみなさんにはご迷惑をおかけしておりますが、なんとしても自前主義を貫きたいと考えております。
- ②したがって、今後も10年は続けたいと考えておりますので、定例的に20万円程度の出資が可能な計画を立てなければなりません。この点は、委員長ひとりで調達しておりますが、大勢の方々に協力をお願いしなければならぬと考えております。